



学校だより

11月号

令和2年10月30日

主体的に学習に取り組む態度

校長 青木 和裕

「～運動会が、あと2週間後に行われますね。では、今週・来週の学年練習の時間、どんなめあてをもって、臨みますか。先生から、今日はここをがんばりましょう、という学年全体のめあても出ると思いますが、自分のめあても、毎時間をもって、練習に臨んでほしいと思います。

○腕を大きく回すなど、大きな動作を心がける。 ○顔の向き、視線を送る方向に気を付ける。

○向きを変えるタイミングが遅れてしまうので、意識して動く。 ○指先をぴんと伸ばす。

こういっためあてをもつためには、自分自身を振り返る力が大切になってきます。先生や友達からのアドバイスを生かしたり、ビデオの映像を見たりして、めあてをもって臨めるといいですね。これは、国語や算数、音楽、図工など、すべての教科についても言えることです。今日は、ここができるようになった、このことが身に付いた。次の時間は、○○についてがんばりたい。

振り返りを次のめあてに生かす、めあてや自分の課題の解決に向かって、粘り強く取り組む、そういう姿勢を心がけると、皆さんの力はさらに伸びます。これは、校長先生が約束します。～」

後期始業式の日、自分のめあてをもって毎時間取り組むことの大切さを子どもたちに話しました。めあてをもつためには、今の自分の現状をしっかりと把握する必要があります。課題を認識する力、と言ってもよいでしょう。課題の解決に向かって、粘り強く取り組む。練習の仕方を工夫したり、やり方を変えてみたり、試行錯誤しながら自分の学びを調整していく。「知識・技能」に裏打ちされ、「思考・判断・表現」と連動しているこの新しい評価の観点が、「主体的に学習に取り組む態度」です。

運動会当日の、子どもたちの笑顔や真剣な表情、きびきびとした動き、周りの友達と息を合わせて表現したり、温かい励ましの声援を送ったりする姿から、主体的に取り組む子どもたちの素晴らしさは、十分伝わったと思います。そして、この当日の素晴らしいパフォーマンスは、粘り強く課題の解決に取り組むのはもちろん、異学年・同学年の友達とお互いのよさを認め合いながら学び合う過程があったからこそです。これからも、「主体的に学習に取り組む」子どもたちを、我々教職員は粘り強く育ててまいります。

コロナ禍で、様々な制約があった中、お互いに譲り合っただけの参観にご協力いただき、誠にありがとうございました。例年ですと、運動会終了後にPTAの皆様からいただく記念品を、今年は事前にいただくことができました。(応援フェスタオルと応援マスコット入りのうちわ)運動会の応援に使ってほしいという温かいお申し出を受け、応援団担当職員が知恵を絞って、「勝利のエアール」でのうちわ、応援歌と応援団退場時のタオル使用となりました。カラフルな流れ星の中に浮かぶ「FUTATSUBASHI 2020」の文字が、学校教育目標のごとく、未来への懸け橋に見えた一日でした。

